

第3回 犀川周辺エリア魅力向上整備基本計画検討委員会

日時:令和7年12月23日(火) 10:00～
場所:金沢市役所第二本庁舎 3階 第2研修室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1)事務局からの資料説明

(2)意見交換

3. 閉 会

委員名簿

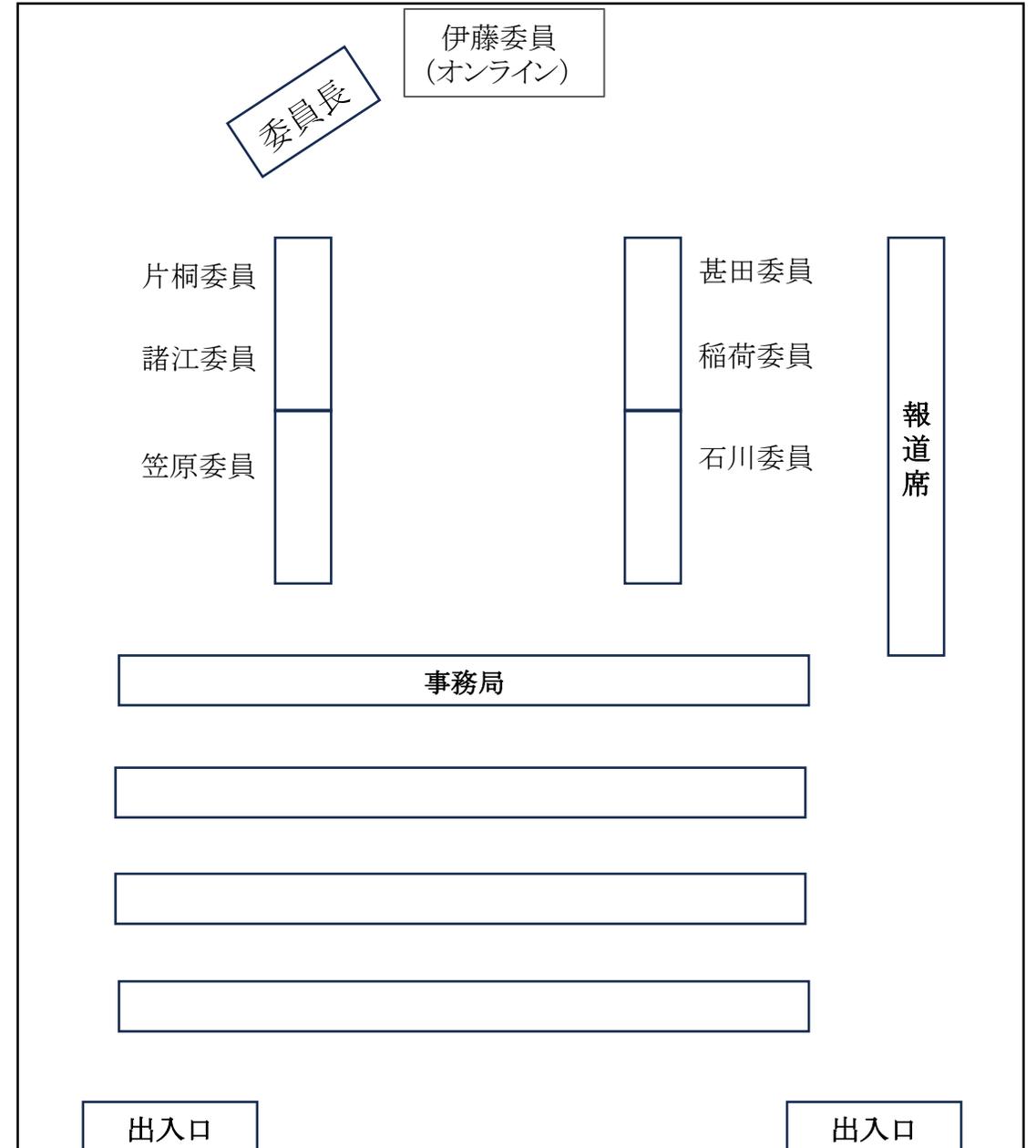
(敬称略)

氏名	団体・役職
丸谷 耕太	金沢大学融合研究域融合科学系 准教授
片桐 由希子	金沢工業大学工学部 准教授
伊藤 香織	東京理科大学創域理工学部 建築学科 教授
諸江 洋	金沢片町まちづくり会議 会長
甚田 和幸	新竪町地区町会連合会 会長
稲荷 明彦	幸町地区防災まちづくり協議会 会長
石川 豊	新竪消防分団 分団長
笠原 颯馬	未来へつなぐ金沢行動会議 委員

オブザーバー 石川県土木部 河川課
石川県県央土木総合事務所 河川砂防課

事務局 都市政策局企画調整課

座席図



第3回 犀川周辺エリア魅力向上整備基本計画
検討委員会

令和7年12月23日

1. 検討の経緯
2. 犀川周辺エリア魅力向上整備基本計画（案）について
3. 意見交換の論点

基本的な考え方、全体コンセプトについて

- ・住民と来街者の視点においては、
まずは市民が日常的に憩い、それに続いて来街者が集まってくる姿を目指す方向性が金沢らしい。
- ・ウォーカブルなまちづくりにつながる計画として策定することにより、地域住民にとって使いやすい空間になる。
- ・日常的な過ごし方を捉えながら、歩きやすさや車と人の関係、自然の連続性や周辺環境との関係を踏まえ全体的な検討を行うことで、周辺地域への賑わいや回遊性向上につながる。
- ・まちや人のニーズは移り変わるが、河川空間のハード整備の機会は少なく、耐用年数も長い。
長期的な視野を持ち、様々なことを受け止められるまちの基盤としてのあり方を考え、整備することが重要。
- ・昔も今も変わらない犀川がもたらすゆとりや美しさ、地域の誇りを次の世代へ伝えていくことも重要。

必要な機能について

- ・ 桜橋右岸下流河岸緑地においては、日常的な賑わいの創出と防災機能のあり方をあわせて検討すべき。
- ・ 河川敷周辺でのイベント時だけでなく、日常的に居心地よく楽しく過ごせる仕掛けがあると賑わいにつながる。
- ・ 雨や日差しを避けることができる屋根や椅子など休める環境を整備することで、河川空間での滞在時間を延ばすことにつながる。
- ・ 犀川周辺で日常的な賑わいを増やすためには、桜橋右岸下流河岸緑地の拠点性を高め、使うきっかけを作り行く目的を生み出すことや、まちのりやバスなどによるアクセス性を高めることが重要。
- ・ 若い世代を呼び込むため、エリアのイメージを定着化させるような特色ある仕掛けが必要。

地域の安全安心

- ・近年異常気象などが続いているため、災害時と平常時の使い分けを考えることも大切。
- ・抜け道利用の多さなど、エリア周辺の交通状況を踏まえた歩行空間のあり方も検討すべき。
- ・犀川大橋周辺の安全対策として、歩車分離対策や整備のあり方を多角的に検討すべき。
- ・賑わいや魅力向上につながる仕掛けを考えるにあたっては地域住民への配慮も重要。

その他

- ・桜並木は河川空間の貴重な木陰として、景観のみならず滞在や賑わいにつなげる役割を担っているため、県・市・地元が連携して計画的な更新を実施すべき
- ・片町の賑わいの連続性と合わせて池田町や中川除町の雰囲気良さや落ち着いた空間の魅力も大事にすべき。
- ・夜の犀川や片町の雰囲気とあいまって景色を楽しむため、夜間照明が明るいことによって良い雰囲気が壊れることのないよう配慮すべき。
- ・犀川大橋の眺望点に限らず、桜並木や山がきれいに見えるなど、素晴らしい風景が沢山あるほか、左岸側には右岸側にはない坂や緑地の上から望める魅力的な眺望スポットが多い。

計画の全体構成

第1章 計画策定

1. 計画策定の目的
2. 計画の対象範囲
3. 計画の位置づけ

第2章 犀川周辺エリアの概況と課題

1. エリアの概況
2. これまでの経緯
3. 課題の整理

第3章 整備計画

1. 全体コンセプトと基本方針
2. 個別事業と実施方針
3. 各個別事業の方向性

第4章 今後について

1. 次年度以降の検討事項

1. エリアの概況

(1) 犀川

- ・金沢市街地の中心部を貫流する二級河川
- ・流域面積256km²・流路延長41km
- ・豪快な流れと雄大な景観から「男川」の愛称
- ・まちなかの貴重な親水空間として市民に親しまれる



(2) 犀川大橋

- ・大正13年 架橋
- ・平成12年 国登録有形文化財に登録
- ・令和5年 架橋100周年・ライトアップ機器更新



(3) 桜橋

- ・明治31年 桜橋に改名
- ・昭和38年 コンクリート製に架け替え
- ・令和2年「谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館」完成にあわせライトアップを整備



(4) 犀星のみち

- ・桜橋右岸詰ー室生犀星文学碑ー犀川大橋ー清川町ー桜橋左岸詰の1,500m区間
- ・市政400年を記念し、市民の応募により「文学のみち」として選ばれる
- ・右岸約400m区間に桜（20本）が並ぶ



1. エリアの概況

(5) 桜橋右岸下流河岸緑地

- ・敷地面積 786.87㎡
- ・位置 桜橋詰右岸（金沢市川岸町）
- ・東側道路沿いにバス停留所とまちのりポート
- ・サイガワリバーサイドアクト等で活用



項目	内容		
	道路側	奥側	
都市計画情報	区分	道路側	奥側
	用途地域	近隣商業地域	第1種住居地域
	建ぺい率	80%	60%
	容積率	300%	200%
	高度地区	20m	12m
	防火・準防火地域	準防火地域	
	駐車場整備地区	金沢市都心部地区	
	集約都市関係区域	居住誘導区域、都市機能誘導区域(都心拠点)	
景観関係情報	伝統環境保存区域	川筋景観区域・犀川大橋～上菊橋地区	
	眺望景観形成区域	金沢城公園辰巳橋跡	
	屋外広告物	第3種禁止区域	
	特定屋内広告物届出地区	特定屋内広告物届出地区	
	照明環境形成地域	まちなか地域	
	夜間景観形成区域	自然景観保全区域	
	川筋景観保全区域	犀川区域 ㊦十三間町～上菊橋地区	

1. エリアの概況

(6) 土地利用

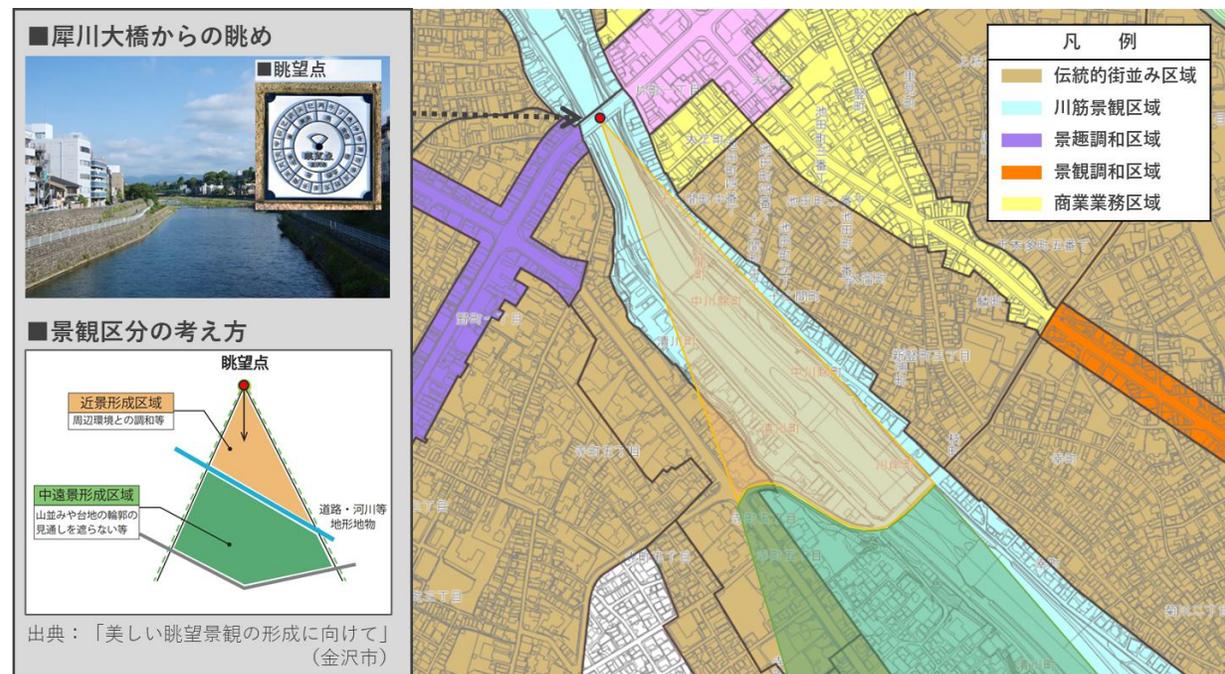
- ・ 右岸側は住宅地が広がり、片町商店街や新豎町商店街など複数の商店街に囲まれている
- ・ 左岸側には金沢最大規模の寺町寺院群



出典：石川県 都市計画基礎調査

(7) 景観・夜間景観

- ・ 川筋景観区域、伝統的まちなみ区域
- ・ 犀川大橋から上流側への眺めが眺望点として指定
- ・ 「まちの風情を感じる夜間景観アクションプログラム」に犀川周辺として位置付け



出典：金沢市 まちづくり支援情報システム

1. エリアの概況

(8) 防災機能

- ・ 拠点避難所：旧新豎町小学校
- ・ 指定避難所：新豎町公民館
- ・ 防災まちづくり協定：幸町地区防災まちづくり協定

(9) 周辺道路

- ・ 対象エリアをなぞるように歴史が感じられる道・ルートがある



1. エリアの概況

(10) 交通

- 犀川大橋詰から桜橋に向かう右岸約200m区間は歩車分離されておらず、交通量が多い
- 桜橋右岸下流河岸緑地前に、城下町金沢周遊バスの停留所とまちのりポートの設置があり利用者の滞留が見られる



2. これまでの経緯

金沢市

- ・「犀川かわまちづくり計画」に基づき、犀川大橋－桜橋間を利活用重点区間として位置づけ
- ・「犀川利活用推進協議会」を設立
- ・官民連携のもと日常的な利活用を促進



犀川河川空間利活用社会実験
「サイガワリバーサイドアクト」実施の様子



石川県

- ・河川管理者として、河川敷の芝生や公園施設を維持管理
- ・「犀川かわまちづくり計画」に基づき、遊歩道や親水護岸等の整備等を順次実施（市の利活用促進と連動）



親水護岸でくつろぐ様子（右岸側）

国（金沢河川国道事務所）

- ・犀川大橋の管理者として金沢片町まちづくり会議等と連携し賑わいを創出
- ・令和6年7月には犀川大橋100周年を祝う「犀川大橋百寿祭」を実施



「犀川大橋百寿祭」実施の様子

3. 課題の整理

現状と課題

現状（エリアの特性）
<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかの貴重な親水区間 ・ 川筋景観、夜間景観を創出 ・ 右岸には商店街・住宅地、左岸には寺町寺院群などが立地

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 犀星のみち（犀川大橋北詰付近）の歩行環境（歩車分離、自動車） ・ 夜間が暗く賑わいが少ない ・ 桜橋右岸下流河岸緑地（未整備） ・ 河川空間の官民連携による日常利用の定着

地域の動き等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 犀川利活用推進協議会による利活用検討（桜橋右岸下流河岸緑地、犀星のみち、河川敷等） ・ 幸町地区防災まちづくり協定の締結 ・ 犀川かわまちづくり計画に基づく河川空間におけるハード整備（県）

（案）方向性

犀川周辺エリアにおける回遊性の向上や新たな魅力の創出

整備基本計画における検討の視点

回遊性の向上

- ・ 犀川大橋周辺⇔桜橋周辺の賑わいの連続性
- ・ 河川空間へのアクセス性の向上

新たな魅力の創出

- ・ エリアにふさわしい夜間景観のあり方
- ・ 桜橋右岸下流河岸緑地の活用

地域の安全安心

- ・ 防災・減災対応力の強化
- ・ 昼も夜も安心してそぞろ歩ける歩行環境 など

基本的な考え方（全体コンセプトと基本方針）

豊かな自然と多様な魅力を生かし
日常の憩いと賑わいがつながる空間の創出

憩いと賑わいが
つながる

- ◆滞在・回遊拠点の整備
- ◆魅力ある夜間景観の創出

まちと自然が
つながる

- ◆河川環境の維持・向上
- ◆親水空間の充実

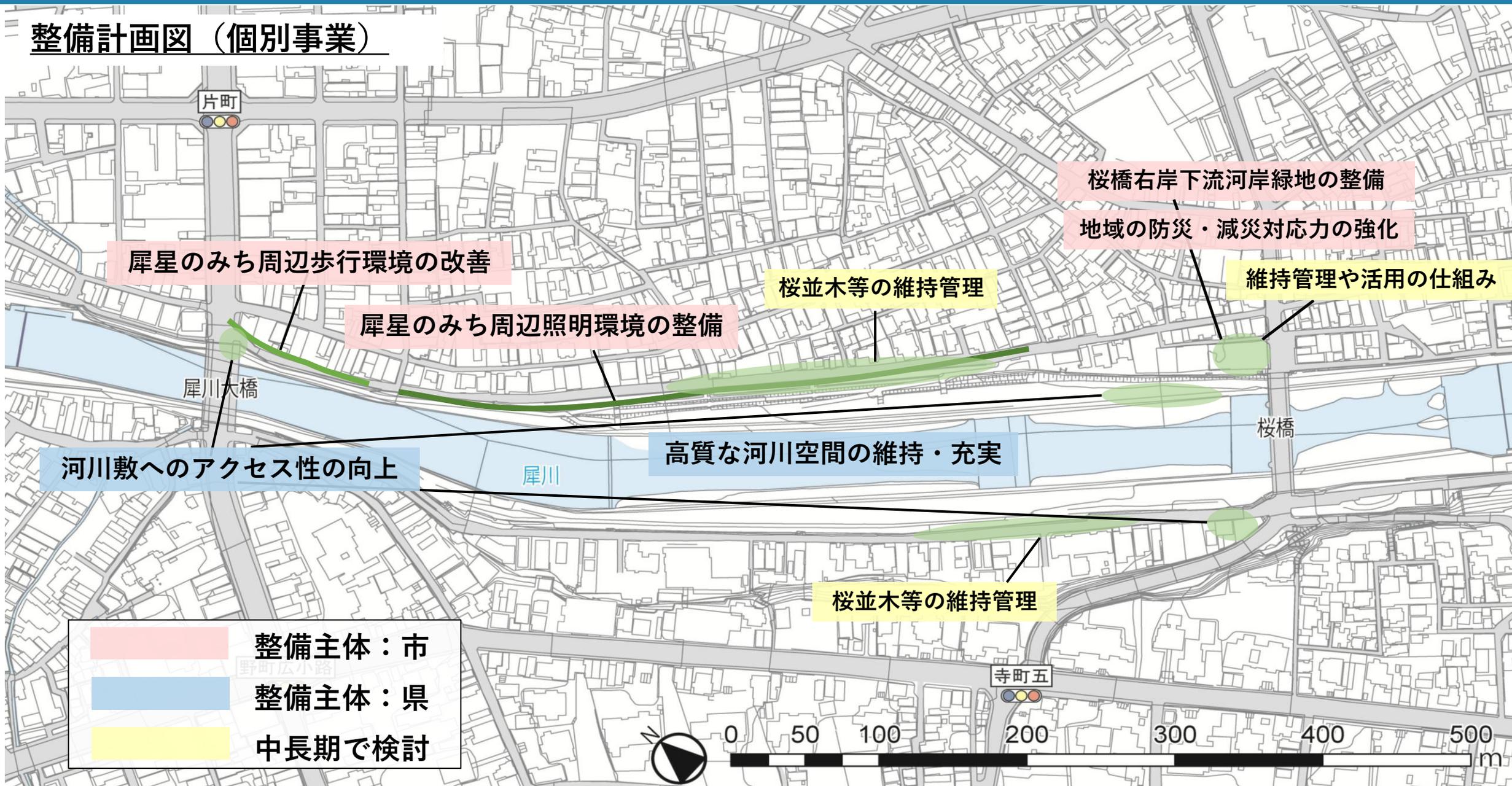
暮らしと安心が
つながる

- ◆地域防災環境の充実
- ◆安心安全な道路交通環境の創出

個別事業と実施方針

基本方針		個別事業	実施方針
憩いと賑わいがつながる	滞在・回遊拠点の整備	桜橋右岸下流河岸緑地の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 滞在・回遊の拠点となる広場整備を検討 →官民連携により日常的な滞在や賑わいを創出し、河川敷を含めた利活用を促進
	魅力ある夜間景観の創出	犀星のみち周辺照明環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夜間の魅力創出に資する照明環境の整備を検討 →夜間も安心して心地よく歩ける環境を創出し、エリア全体の回遊性を向上
まちと自然がつながる	河川環境の維持・向上	高質な河川空間の維持・充実	<ul style="list-style-type: none"> ■ 河川敷における芝生の管理やトイレの美化清掃など質の高い維持管理を実施
		桜並木等の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 植栽等の維持管理や老朽化が進む桜の計画的な更新を検討
	親水空間の充実	河川敷へのアクセス性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 河川空間の利活用を促進する親水護岸や階段、ウッドデッキ等を整備
暮らしと安心がつながる	地域防災環境の充実	地域の防災・減災対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 桜橋右岸下流河岸緑地において、地域のニーズにあった防災・減災機能の導入を検討
	安心安全な道路交通環境の創出	犀星のみち周辺歩行環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ■ 道路空間や交通規制の見直し等による歩行環境の改善策を検討

整備計画図（個別事業）



1) 憩いと賑わいがつながる

3) 暮らしと安心がつながる

滞在・回遊拠点の整備

地域防災環境の充実

個別事業の方向性【桜橋右岸下流河岸緑地の整備】

検討の方向性

- ・ 河川空間との連続性の確保
- ・ 賑わい・交流機能
 - ▶ 川を眺めながら交流できるテラス空間
 - ▶ キッチンカー等の出店スペース
 - ▶ 備品倉庫の設置
- ・ 防災・減災機能
 - ▶ 防火水槽、かまどベンチ など



下図：GoogleEarth

1) 憩いと賑わいがつながる

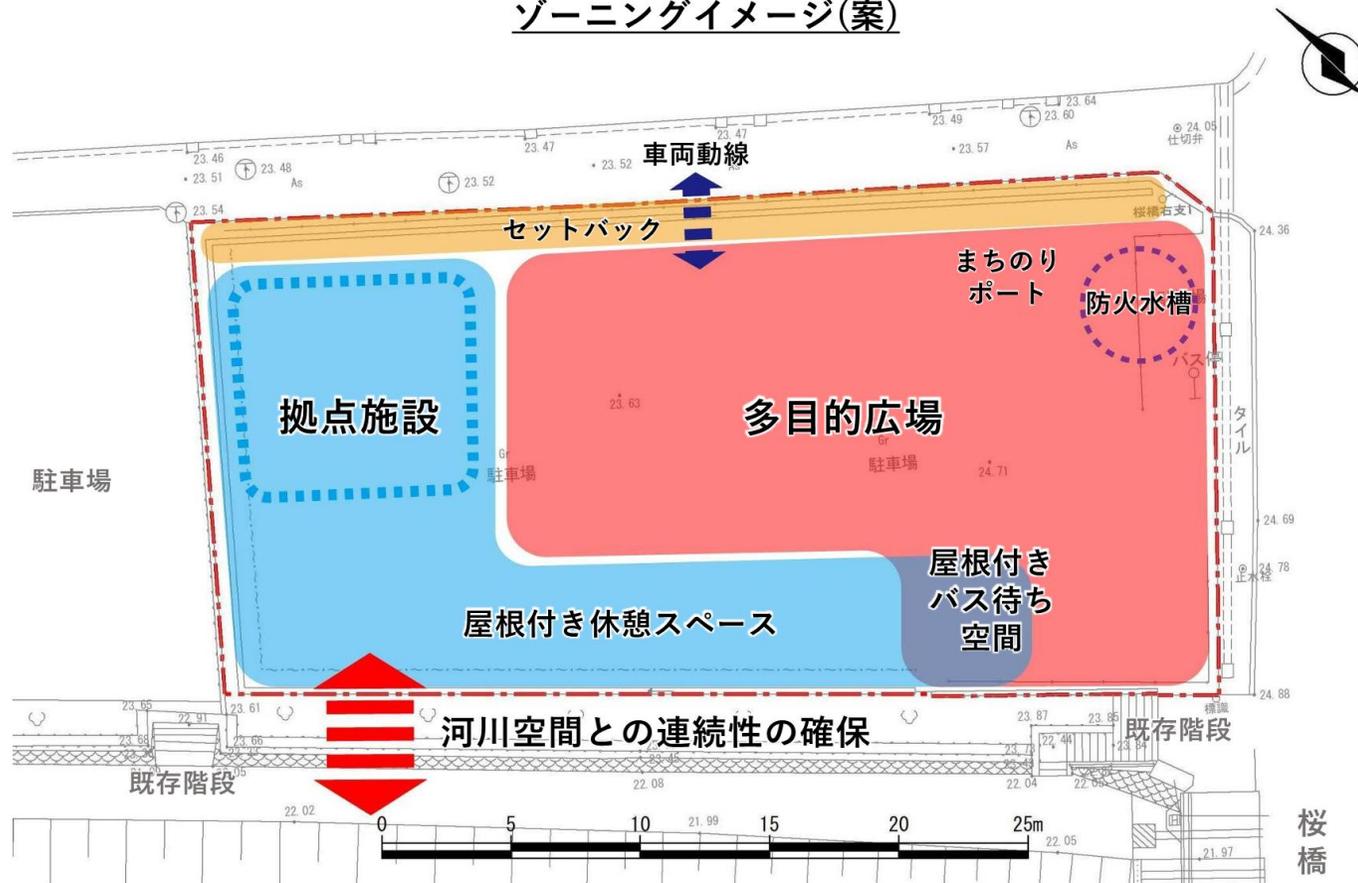
滞在・回遊拠点の整備

3) 暮らしと安心がつながる

地域防災環境の充実

個別事業の方向性【桜橋右岸下流河岸緑地の整備】

ゾーニングイメージ(案)



具体的機能 (案)

拠点施設

- ・雨や日差しを避けて滞在できる屋根付きスペース
- ・備品倉庫、トイレなど

多目的広場

- ・イベントや地域防災活動への活用など
(キッチンカーの出店を含む)

防災設備 (防火水槽等)

- ・地域の防災減災機能

その他

- ・バス待ち空間、まちのりポートなど
- ・電源・上下水道

※詳細な構造や配置については実施設計で調整予定

1) 憩いと賑わいがつながる

滞在・回遊拠点の整備

整備後の課題

維持管理や活用についての検討

- ・ 官民連携による運営
- ・ 地域との連携
- ・ 持続可能な維持管理



日常的な利活用を継続的に支える仕組み

- ・ 維持管理のサポート
- ・ 居心地を高めるサービスの提供
- ・ 利用者・活用者への情報発信
- ・ 地域や関係団体との調整 など

(参考) サイガワリバーサイドアクト2025

期間：令和7年9月20日（土）～10月19日（日）

場所：桜橋右岸下流河岸緑地、犀川河川敷

主催：犀川利活用推進協議会

川を眺められるテラス席が利用者からも好評



地元カフェ事業者がキッチントレーラーで出店（約15日間）し、連日多くの人で賑わった（利用者：延べ312人）

1) 憩いと賑わいがつながる

滞在・回遊拠点の整備

(参考) 年間を通した活用のイメージ

春



河川敷を含めた利活用



多様な団体によるイベント

秋



憩いと交流の空間づくり



季節に合わせた仕掛け

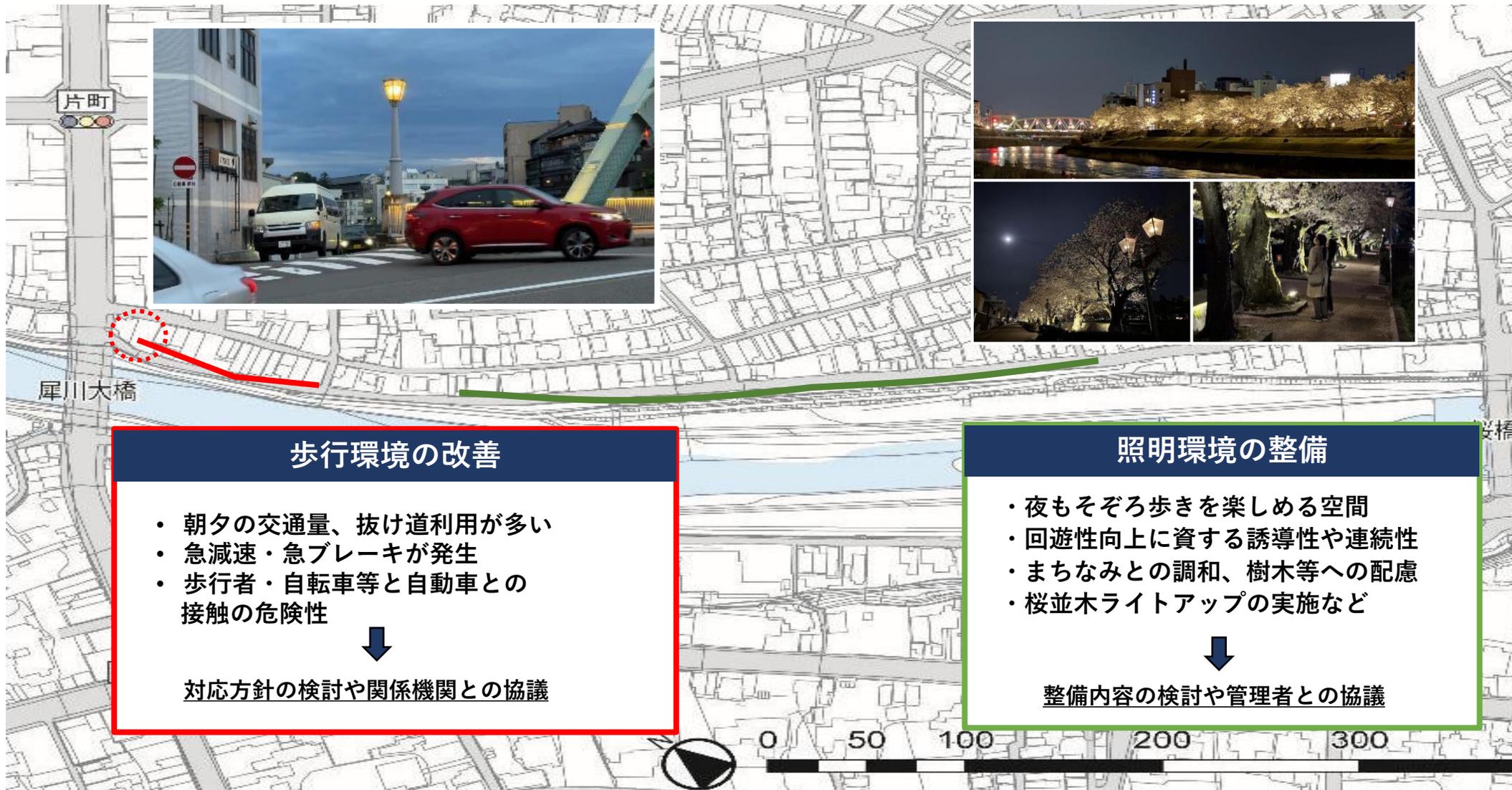
1) 憩いと賑わいがつながる

3) 暮らしと安心がつながる

魅力ある夜間景観の創出

安心安全な道路交通環境の創出

個別事業の方向性【犀星のみち周辺歩行環境の改善・照明環境の整備】



2) まちと自然がつながる

河川環境の維持・向上

個別事業の方向性【高質な河川空間の維持・充実、桜並木等の維持管理】

現状



桜の老朽化対策（参考事例）

- ・ 樹木医による確認作業



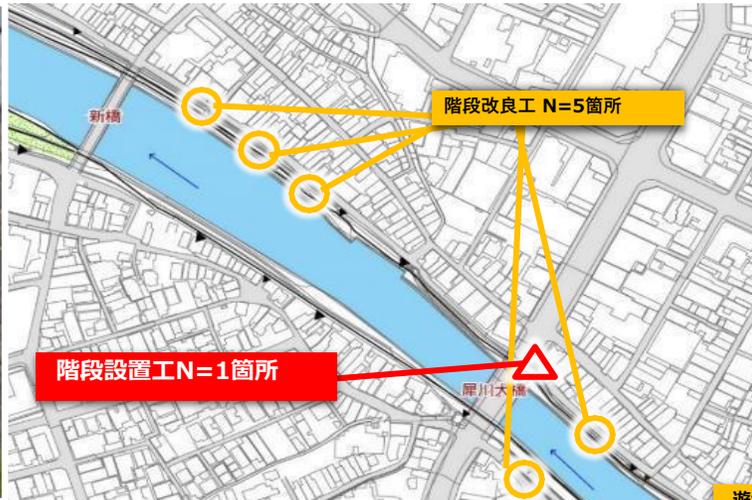
出典：農林水産省ウェブサイト

https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2303/spe1_04.html

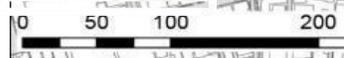
2) まちと自然がつながる

親水空間の充実

個別事業の方向性【河川敷へのアクセス性の向上】



※赤は今後整備予定



次年度以降の課題・留意点

■整備等について

- 桜橋右岸下流河岸緑地整備にかかる具体的機能の規模・意匠等
- 犀星のみち周辺照明環境整備にかかる整備内容・手法等
- 犀星のみち周辺歩行環境の改善に向けた対応方針等
- 桜並木の計画的な更新

■管理・活用について

- 桜橋右岸下流河岸緑地の維持管理・活用の仕組み

- 計画案に加えるべき視点、役割、機能
- 次年度以降の課題等に加えるべき点 など